

(22) 観光地（上高地）に防災（砂防）事業を 実施するにあたっての問題点の検討

－砂防事業と自然保護意識の間に生ずる問題の市民意識調査
と自然景観の経済価値（観光価値）を算出した結果について－

建設省北陸地建 榎 本 政 雄
榎 本 真
○平 林 玉 次

わが国の代表的観光地である上高地は、観光期間5月～11月の間に、85万人の観光客が訪れ、この地域の定住人口400人に対して、約2,000倍の人口が、標高3,000m級の山々に取り囲まれた狭い谷間に混在する現状となっている。この地域は今までに定住する人口が少ないために、計画面では全く見落されていた地域であるが、観光客という流動する人口を含めて考えた時、この地域は沢の出合いに点在するテント村、旅館と、むしろ人口稠密な集落として考えた方が、適当であると考えられる。しかも、この観光期間は梅雨前線、台風、秋雨前線による豪雨の期間にあたり、豪雨襲来時には、この地に人命の被害も含めた大きな被害が予想される。

このことは、この梓川と隣接し、河況の類似した高瀬川に昭和44年8月1日に発生した災害の状況を、この流域にあてはめて考える時、この上高地地域の災害状況の実態が描き出されるものである。

松本砂防工事事務所では、これらの背景を踏えて、この上高地地区の砂防計画を樹立すべく取り組んでいる。

観光地（上高地）に砂防事業を実施するにあたって、工事によって自然が破壊されることに関する問題を始めとして、難しい問題が山積みしている。松本砂防工事事務所では、この地域の計画をたてるために諸調査を実施しているが、この調査の一環として、

1. 観光地（上高地）に防災（砂防）事業を実施するにあたって、市民が防災（砂防）事業に対して、どのような意見を持っているか、特に市民の自然保護意識から、この地域の問題を市民に問うた意識調査を実施した。また、
2. 上高地地区の経済価値（観光価値）を算出したが、本報告はこの成果を発表するものである。